



分科会 14 リスクマネジメント ～医療安全のための新たなステージ～

10月8日(月・祝) 9:00～11:30 第6会場(アクトシティ浜松 研修交流センター 2F 音楽工房ホール)

W-14-03

臨床思考プロセスに基づく薬物治療のリスクマネジメント ～第二ステップの新型リスクマネジメントへの展開

やまむら しんいち
山村 真一

プライマリーファーマシー

医薬分業の歴史の中で、リスクマネジメントの概念が導入された歴史はまだ浅く、「医薬品の安全使用のための体制の確保」の義務化でさえ平成19年4月から始まった事である。そのような状況であるので、現場におけるリスクマネジメントといえば、主に「薬を間違えない」という誤調剤の防止、そして誤調剤によって引き起こされたアクシデントに対する対応を意味する場合が多い。しかしそれらへの対応はどの業界にも通ずる基本中の基本の範疇であり、リスクマネジメントの考え方の中では第一ステップであると言えよう。では次の第二ステップとは何かを考えるために、そもそも薬物治療におけるリスクマネジメントの目的とは何かについて考えてみると、「有害事象の回避」という事になると思う。もちろんそれはどのステップにおいても重要なテーマであるが、第一ステップの誤調剤に起因しない第二ステップでの有害事象の回避について考えてみると、そこに臨床思考プロセスに基づく薬物治療のリスクマネジメントという概念が登場してくる事になる。そこでは第一ステップとは性質の異なるリスクマネジメントが必要となり、モニタリングによる薬物治療の評価、アドヒアランスバリアーへの対策、生活習慣へのアドバイス、そして副作用についてのマネジメント等への展開が待っている。特に今はチーム医療において薬剤師が行うべき業務の見直しが始まっており、特にリスクマネジメントの観点から薬剤師裁量拡大の入り口に立っているため、これからの積極的関与が待たれる現状である。またその中でも有害事象の回避という観点から副作用マネジメントは特に重要と考えられ、その初期症状の察知、重篤度トリージ、処置対応に対する知識とスキルが求められる事になる。実はこの部分こそ国民から求められている医薬分業の肝とも言える業務なのだと思う。薬剤師がそのような第二ステップのリスクマネジメントを背負い、きちんと責任を取る事で初めて医薬分業が社会の公器として認められるのではないだろうか。しかしこの分野はまだ未成熟と言ってよく、その有害事象回避に必要な薬局による副作用情報の収集、患者への情報提供すら不十分な現状である。この第二ステップへのステップアップのためには、個人の努力では補えない組織的なマネジメントが求められてくるであろうし、特に結果予見義務と結果回避義務に基づく副作用説明義務の程度の議論は急ぐべきである。以上の視点から、医薬分業下で国民から求められている薬局における第二ステップの新型リスクマネジメントについて考えてみたい。